



「小さな親切」運動

鹿児島県だより

できる親切はみんなでしょう、それが社会の習慣となるように

SMALL KINDNESS MOVEMENT



コスモスの花は、「小さな親切」運動のシンボルフラワーです。花言葉は、「まごころ」です。

ごあいさつ

代表 布袋 嘉之



「できる親切はみんなでしょう、それが社会の習慣

となるように」これは「小さな親切」運動のスローガンです。誰でもできる親切を、少し勇気を出して実行する、そんな当たり前で簡単なことの積み重ねが、やがては、思いやりあふれる温かな社会づくりにつながるものと考えます。

会員をはじめ多くの皆様方に「小さな親切」運動の推進に御支援・御協力をいただいておりますことに心から感謝申し上げます。

さて、全国で「小さな親切」運動が開始されて60年、本県においても半世紀にわたり、取り組んできましたが、時代の移り変わりとともに、会員数も減少し運営は厳しい状況にあります。

このため、今年度から事業の見直しを行いました。児童・生徒の皆さんが「親切」について感じたり考えたりしたことを綴った作文や「てのひら感謝状」コンクールへの推薦、また、「親切」を実践された皆さんに対する実行章の贈呈などは引き続き行ってまいります。

昨今、人と人のつながりの希薄化や社会の分断などがいわれます

が、このような時こそ、私たち一人ひとりが他者を思いやり、つながりを大切に、精神的な豊かさの実現を目指す「小さな親切」運動の精神が必要とされているのではないかと考えます。

運動の灯を絶やすことなく、これからも皆様の一層の御支援・御協力をいただきながら、心豊かな子どもたちを育み、思いやりあふれる温かな社会を目指してまいります。

変わらぬ御支援・御協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

「小さな親切」八か条

- 1 朝夕のあいさつをかならずしましょう。
- 2 はっきりとした声で返事をしましょう。
- 3 他人からの親切を心からうけ入れ「ありがとう」といましょう。
- 4 人から「ありがとう」といわれたら「どういたしまして」といしましょう。
- 5 紙くずなどをやたらにすてないようにしましょう。
- 6 電車やバスの中で、お年寄りや赤ちゃんをだいたおかささんには席をゆずりましょう。
- 7 人が困っているのを見たら手っだってあげましょう。
- 8 他人のめいわくになることはやめましょう。



「小さな親切」運動新規会員募集

(1) 「小さな親切」運動鹿児島県本部の会員制度

会 員	個 人 会 員	年会費	3,000円 以上
	団 体 会 員	年会費	1人につき 600円
賛助会員	団 体 ・ 企 業	年会費	5,000円 以上
学校会員	小 ・ 中 ・ 高 校	年会費	10,000円

※ 入会された会員には、会員バッジ・情報誌「小さな親切」（季刊）をお送りします。

(2) 入会手続

入会申込書を「小さな親切」運動鹿児島県本部事務局へ送り、所定の会費を払い込むことで会員になります。入会申込書受理後、会費振込用紙を送付いたします。

なお、入会申込書は、ホームページからダウンロードできます。

(<http://www.kaken-shakyo.jp/shinsetu/kindindex.html> 「小さな親切」運動鹿児島県本部)



令和6年度「小さな親切」運動鹿児島県大会報告

今年度の県大会は、12月10日（火）に県社会福祉センター7階大会議室で開催しました。来賓の白男川青少年男女共同参画課長（知事代理）にご祝辞をいただき、その後、公益社団法人「小さな親切」運動本部主催の第49回全国作文コンクールの優秀賞等や第40回はがきキャンペーンの河出書房新社賞の表彰伝達、さらに「小さな親切」実行章の表彰を行いました。

次に、作文コンクールで優秀賞及び入選した3名に「小さな親切」運動にふさわしく、素晴らしい作文を力強く堂々と朗読していただきました。

はがきキャンペーンで河出書房新社賞を受賞された中村様にも、入賞作品「おかげ様で幸せ」の朗読と併せ、今年101歳になられたお母さんのお話のなかから言われた事で、心に残っていることをご紹介していただきました。

また、実行章を受章された「渚を守る会」の寺園様には、活動状況等について写真を交えながら、ウミガメがやって来やすい美しい砂浜を保つための苦労話などをお話していただきました。

この大会の開催にあたり、ご協力いただいたすべての関係者の皆様方に心から感謝申し上げます。



布袋嘉之 県本部代表



白男川 青少年男女共同参画課長



作文朗読（優秀賞）
古市智也さん



作文朗読（入選）
石原佳夏さん



作文朗読（入選）
徳田 妃さん



はがき朗読（河出書房新社賞）
中村郁美さん



実行章の活動状況発表
寺園洋一さん



- 【表彰】（敬称略）
1 第49回「小さな親切」全国作文コンクール表彰〔優秀賞〕
鹿児島市立田上小学校3年 古市 智也

- 〔入選〕
鹿児島大学教育学部附属小学校4年 石原 佳夏
鹿児島大学教育学部附属中学校1年 徳田 妃

- 2 第40回「小さな親切」全国はがきキャンペーン表彰〔河出書房新社賞〕
〈一般〉中村 郁美（鹿児島市）
3 「小さな親切」実行章表彰
神蘭 美智江（鹿児島市）
森下 和子（志布志市）
株式会社 常盤建設（指宿市）
渚を守る会（南大隅町）

全国作文コンクール入賞作品

〔優秀賞〕

「思いやりのつまったせまい道」

鹿児島市立田上小学校

三年 古市 ともや

「おばあさん、気づいていないのかな。ぼくとお母さんと車にのって買い物に行った帰りのことです。手おし車をおしながら、ゆっくりゆっくり歩いているおばあさんがいました。ぼくの家の近くの道はとてまもなく車が一台通るのがやっとの広さです。その道は通学するので毎日ぼくも通る道です。おばあさんは後ろから来ているぼくたちの車にまったく気づいていません。」

「いつになったら気づくんだろう。」少しぼくはいらいらとあせる気持ちになりました。でもお母さんはゆっくりとしたスピードで走ります。ぼくはお母さんに、

「お母さん、プップってならせばいいんじゃない。」と言いました。

お母さんは、「いいよ。もう少しいけばよければいいよ。もう少しいけばいいよ。」と返ってきた。どうしてクラクションならささないのだろう。そしたらおばあさんも気づくのに。

「ともや、人は年をとると、耳も遠くなるし歩くのもおそくなるんだよ。大きい音にびびりしてころんでしまうかもしれないしね。」とお母さんはつぶやいていました。

「それに自分のおばあちゃんだと思ったら、やさしい気持ちでまっであげられるよ。」そう話しているうちに少し広くなったところまで来たので、おばあさんも気づいてよこに止まってくれました。すれ

ちがう時に、お母さんはベコッと頭を下げて通りすぎました。おばあさんもベコッとしてベコッと頭を下げました。

ぼくは、それを見てなんだか心がぼかぼかとあたたかくなりました。

ぼくも朝の登校や学校がおわって下校する時、ランドセルがとつてもおもしろい日があります。そんな日はかたもいたいし、足もつかれてすわってしまいたくありません。雨がふる日はかさをさすので車が来ていることに気づかない時があります。

そういう時、うんてん手さんは、ぼくが気づくまでまっすぐ歩いてくれます。それと同じなんだなと思えます。うんてん手さんのやさしい気持ちが車にのつてはじめてわかりました。

この道は、ほかにもいいところがあります。車がすれちがう広さはないのでどちらかがよけられるところでよけてまわっています。おたがいにベコッとしたり、手をあげたり、合図をおくりあつていました。

登校や下校の時には地いきの人たちが声をかけてくれます。ぼくも大きな声であいさつするようにしています。

引っこしてきた時はせまいしぶんだなと思つていたけど、思いやりとやさしさにあふれた道だと気づきました。うんてんする人も歩いている人もぼかぼかの心をもつています。

このせまい道は、ぼくの、じまんの道です。



〔入選〕

「バスの中の青い水とう」

鹿児島大学教育学部附属小学校

四年 石原 佳夏



「これ、どうすればいいのだろう。」わたしは、目の前の青い水とうを見つめながら考えた。学校から帰るバスの中で、ふと通路の向こう側の席を見ると、青い水とうがごろんと置いてあった。この席に座っていた男の子は、「つ前のバスでいでおりにいった。その子は、同じ学校だ。が学年がちがう、見たことがない子で、水とうには名前が書いてあったが、きいたことのない名前だった。わたしは、この水とうを運転手さんにわたすか、自分で持つて帰るかなやんでいた。その時、わたしは二年前のことを思い出した。その日は、同じ学校の子が、バスにかさをわすれていた。わたしは、何も考えずそのかさを運転手さんにわたして、バスをおりました。家に帰り、母にそのことを話すと、母は言った。

「そのかさ、持つて帰ってくればよかったね。そしたら、明日その子にわたせたのね。」それを聞き、わたしはしまつたなあと考えた。

「よし、持つて帰ろう。」わたしは、その青い水とうを手に取り、むねの前にかかえてバスをおりました。水とうには、まだ水が入っていて少し重く、家まで歩いて帰る間、チャブチャブと水のゆれる音が、むねにひびいた。

家に帰り着くと、わたしを見るなり母が、「どうしたの、その水とう。だれの水とう。」と、おどろいた顔で言った。

わたしは、「どうすればいいか、やんだんだけど。」と、バスの中のことを話した。母は笑って、「持つて帰ってきてよかったね。バスのわすれ物係にとどけられると、持ち主にもどるまでに時間がかかるかもしれないからね。」と言いがら、水とうをあらってくれた。そして、学校へ電話をかけ、水とうを持つて帰ってきたことを、先生に伝えてくれた。

電話を切り、母はわたしに先生からの話を伝えた。「水とうの持ち主は、二年生の子だつて。明日、佳夏が先生にとどけたら、先生からその子にわたしてくれるつて言つたよ。」

わたしは、かわいた水とうを青い水玉も様のビニールぶくろいに入れ、明日学校へ持つていく手さげかばんの中にそつと入れた。

次の日の朝学校へ着くと、真つ先に水とうを先生にとどけた。その後、わたしが校庭で遊んでいると、わたしの友達があつて来て、

「先生が、佳夏ちゃんをさがしているよ。」と言つた。わたしは急いで教室へもどると、ろう下に先生と小さな男の子が立っていた。

「佳夏ちゃん、この子の水とうだつたんだ。ありがとだね。ほら、君もおれいを言つて。」先生にうながされて、男の子は小さな声で、

「ありがと。」とほろほろと泣いて、わたしは、照れくさくて、うなずいた。ただけだつたが「やっぱり持つて帰つてきてよかったな。」と思つた。

それからしばらくして、あの男の子がバスをおりるところを見かけた。かたからは、あの青い水とうがすっかりかかっていた。

全国作文コンクール入賞作品

【入選】

「笑顔の花が咲いている、きつと今も」

鹿児島大学教育学部附属中学校

一年 徳田 妃

「いや、いいのよ。」

ありがとう。」

市電に乗るとき、いつもこの言葉とあの笑顔が脳裏に浮かぶ。



私は市電で登校している。市電は多くの人が利用するので、いつも混んでいる。そんな中で子どもやお年寄りの方が席に座れずにいるのを見たことがあるが、私は、ある出来事を体験するまで、親切にはしたいけど声をかける勇気がなく、行動に移すことができなかつた。

ある日、市電で外国人の方に席を譲ってもらった。重たい荷物を持ち柱をにぎって立っていると、目の前に座っていた男性が、急に立ち上がり、「へい、ガール。プリーズシットダウン。」と手招きし席を譲ってくれた。

その人の荷物も大きく重そうなのに、その親切が嬉しく、私は自然と笑顔になった。「センキュー。」と覚えただけの英語と、笑顔で、精一杯の感謝を伝えた。そして、人を気遣う心は世界共通なのだと思っただ。途中で降車したその人の背中からは、どんな人にも親切にできるかっこよさを感じた。

それからしばらくたったある日、市電がとても混んでいた。私が座っている前に、一人のお婆さんが立っている。私

は、外国人の方にしてもらった親切を、今度は私がする番だと思った。が、ドクドクッと何故か急に心拍が速くなるのが分かる。高まる緊張。声をかけなくても他の人が席を譲るかもしれない。でも私がしないで、誰がするのか。譲るか譲らないか、頭の中で起きる葛藤。色んな意見が駆け巡る。だが、自分の恥ずかしさで声をかけずにいるよりもお婆さんが席に座れる方が絶対いい。決めた。勇気を奮い起こし、「あ

い、席に座りませんか。」と声をかけた。聞こえているのか、どんな顔をされるのか、分からない。長く感じる、返事が来るまでの時間の中で心拍がもつと速くなる気がした。

「いや、いいのよ。ありがとう。」と声が返ってきた。お婆さんの温かい笑顔と優しい声。

私は、自分の気持ちがお婆さんに伝わったことに安心した。お婆さんは続けて、「あなたは優しいわね。その良さを大事にしてね。」と言ってくれた。

私は、自分から行動できたこと、お婆さんが笑顔になってくれたことの嬉しさ、喜びでとてもいい気持ちになった。

自分の親切な行動で誰かが笑顔になってくれると、誰かが親切な行動を自分にしてくれると、嬉しくて笑顔になる。

親切は笑顔の花を咲かせる魔法だ。私は、いつでも、どんな人にも勇気を出し、親切である人になりたい。いつか、世界中を笑顔の花でいっぱいしたい。と思っている。

あなたの考える親切とは、どのようなものですか。

全国はがきキャンペーン入賞作品

【河出書房新社賞】

「おかげ様で幸せ」

中村 郁美 (鹿児島市)

これは、今年百一歳を迎える母の話である。

長寿の母は、「親切にされる」という思いは無いと言うのだ。

百年も生きてるのに、それはないだろうと言うと、

母は、自分の人生をポツポツ話してくれたのである。

生まれて、すぐ父を亡くし、兄弟姉妹を母一人で育ててもらった事。

「他人に後ろ指を指される事は、絶対しないよう」厳しく育てられた事。

日暮れまで泥まみれで畑仕事をしている時は、必ず近所の人達が一緒に手伝ってくれる事。

母の集落では、こんな風に、みんなが親しく協力、助け合って生活する「いい」と呼ぶ風習があった事。

苦しい時、困った時、みんなで助け合い、支え合って生活するのがあたりまえだったのだ。

だから、親切にされたら、特別に思わないのだ。

週三回デイサービスに通う母は「みんなやさしい。みなさんのおかげ様で幸せ」と手を合わせている。



あなたの周りの「親切さん」を教えてください。

～「小さな親切」実行章 推薦のお願い～

1 「小さな親切」実行章の贈呈とは

「小さな親切」運動の発足以来続けている基幹的な活動です。「小さな親切」を行った方(団体・個人)を推薦していただき、実行章の賞状を贈呈して表彰するものです。実行章の推薦は、いつでも、だれでもできます。

この活動は親切な行為のモチベーションを高めるとともに、地域社会の中に思いやりのネットワークを広げていくことが目的です。あなたが見た、受けた、新聞で読んだ、地域で話題となった「親切さん」を推薦してください。

2 親切行為の事例

- 学校内や地域の交通安全活動等を通して、いつも明るく元気な挨拶を行っている。
- 学校内や地域のゴミ拾い、清掃活動を行っている。
- 地域のまちづくり、郷土芸能の伝承活動、読み聞かせ活動などを行っている。
- 学校内や地域で困っている人への支援活動、募金活動、環境美化活動、高齢者・子育て支援活動、福祉施設等への慰問活動など、社会奉仕・ボランティア活動を行っている。

<実行章の推薦先>

〒890-8517 鹿児島市鴨池新町1番7号 県社会福祉センター3F

「小さな親切」運動鹿児島県本部 TEL 099-257-3848 FAX 099-251-6779